



小牛田小学校

# リーダー・イン・ミー通信

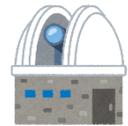
小牛田小学校のリーダー・イン・ミーの取組を紹介します！

令和3年12月7日 第5号

小牛田小学校ライトハウスチーム

<http://kogota-es.misato-ed.jp/>

学習発表会で、6年生が「7つの習慣」を紹介する発表をしました。これは、先日実施したリーダーシップ集会で、下級生にして見せた発表の反省を生かして、再構成したものでした。6年生は、自分たちで台本を考え、自分たちで練習をして発表に臨みました。担任は、「一切手を出さない」と心に誓って、子供たちの主体性に任せて取り組んだ発表でした。つたなかつたり分かりにくかつたりする部分もあったかもしれませんが、子供たち手作りの発表は、とても微笑ましく、そして、力強く感じました。



## 第1の習慣 「主体的である」

先日の朝会でした話を紹介します。子供の頃に就きたいと思っていた職業についての話です。

私の子供の頃の夢は、「宇宙を調べる仕事に就く」でした。星の写真を眺め、月刊誌を買い込み、図書館で本を借り読んでいました。夜中に望遠鏡を出して、星を観察したり、天体写真を撮ったりしていました。今だから言えますが、「今日は、日食があり、写真を撮りたいので、早退します。」と言って、高校から帰ってきたこともあり、「宇宙好き」でした。しかし、その子供の頃の夢は、ご存じのとおり実現しません。なぜ実現できなかったのかを考えてみたら、当時の私には、第1の習慣に関係する主体性が、足りなかったということに気づきました。確かに宇宙が好きで、「宇宙を調べる仕事に就きたい」と思っていました。しかし、宇宙を調べる仕事に就くための方法を調べなかったし、そのための具体的な努力もしていませんでした。どこかの誰かが、教えてくれるのを待っていた感じです。つまり、「宇宙を調べる仕事」に対して自分が主体的に向き合っていなかったことに気がついたのです。朝会では、私はできませんでしたが、「皆さんは夢に向かって主体的になってほしい」という話をさせてもらいました。

## 第5の習慣 「分かってあげてから、分かってもらう」

ある人が、視力が落ちてきたので、眼科に行きました。医者はしばらく話を聞くと、あなたに自分の眼鏡を渡して、こう言います「かけてごらんなさい。10年使いましたが、いい眼鏡ですよ。あなたに差し上げましょう。」「ダメです。見えません。」「おかしいなあ、いい眼鏡なのに、もっと頑張ってください。」「ダメです。」「なんていう人だ。私がこんなにもあなたの力になろうとしているのに。」医者が怒り出しました。こんな眼科はないとは思いますが、相手の話をよく聞くという習慣が第5の習慣です。

「どうしたの。悩みがあるなら話してごらんなさい。私ほどあなたを心配している人はいないのよ。」

「きっと馬鹿みたいな話だって言われるよ。」

「そんなことないわ。話してご覧なさい。本当に心配しているのよ。」

「本当のこと言うと、もう学校が嫌になったんだ。」

「なんですって?! 学校が嫌ってどういうこと、あなたの教育のために家族がどれだけ犠牲を払ってきたか分かっているの。教育はあなたの将来の土台を築くのよ。お姉ちゃんのように勉強すれば、成績も上がるし、学校だって好きになるはずだわ。もっと勉強を頑張りなさい。」

さて、この人は、この子の悩みに寄り添っているのでしょうか。診断せず処方箋を出してしまった眼科医と同じように見えるのは、私だけでしょうか。

# リーダー・イン・ミー こぼれ話



先日の代表委員会で、「7つの習慣を学んできた成果だなあ」と思う出来事がありました。紹介させていただきます。

第5回の代表委員会では、「あいさつ+1運動を活性化させたい」という願いで話し合いがもたれました。各学年で、している人としていない人の人数を調査し、なぜできないのか理由も調査しました。その上で、あいさつがあらわれる学校にするためのアイデアを出し合いました。

くすぐ始められるもの>	準備が必要なもの>
明るい声で元気に言う	ポスター
朝の会で言う	+1のバリエーションをたくさん考える
目を見てあいさつ	みんなであいさつする場をつくる
朝、保健室の先生に「あいさつ+1」をする	あいさつカードを作る
自分から勇気を持って言う	あいさつ賞状を作る
<b>玄関で自分たちが「あいさつ+1」をする</b>	缶バッジを作り、みんなで身につける

「放送で呼びかける」という意見が多く出されましたが、「放送だと効果がないのではないか？」という意見や「放送する人だけに負担がかかる」と言った意見、「放送室が密になる」などの意見が出されました。

そんな中で、「玄関で自分たちが『あいさつ+1』をする」の効果が高いのではないかという意見が出されました。しかし、「朝に早く登校できない」や「やめた方がいい」などの反対意見もたくさん出てきました。話がまとまらなかったため、多数決をとったところ、9対10で反対の人が多く、中止の方向に話し合いが進みました。そこで、意見を出してくれたのが6年生の男子でした。

「できない人は、他の仕事を分担してやればいいし、できる人からやればいいじゃない。」

この言葉が潮目になりました。翌日の火曜日からできる人が自主的に「あいさつ+1」に取り組むことになりました。朝の7時50分から8時までの10分間のあいさつ運動に自主的に名乗りを上げてくれたのは、3年生2名と6年生5名でした。

自主的にあいさつ運動をした子供からは、「あいさつをしてみんなもあいさつをしてくれるのがうれしかった。」



。「返してくれなかったときもあって、続けたいと思った。」「楽しかった」などの感想が出されました。

2日の委員会活動では、よかったことと課題を整理しました。第2の習慣を生かして、冬休み明けに本格始動する計画を立てて、そのときのゴールも決めて取り組むことにしたそうです。

代表委員会での6年生男子の発言は、第1の習慣「主体的である」、第

よい点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしがらずに誰にでもあいさつすることができた。</li> <li>・雰囲気よくなった。</li> <li>・あいさつしてくれてうれしかった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつしてくれない人もいたので、継続が必要。</li> </ul>

5の習慣「分かってあげてから、分かってもらう」にかなう発言だと感じました。小さなことかもしれませんが、少しずつ「7つの習慣」が、浸透してきているのを感じます。子供たちは、目に見えないけれども、着実に成長している手応えを感じています。(小松英明)